

新連載企画「我が故郷」原稿募集開始！

終活期に入ると何故か自分の原風景が偲ばれます。唱歌「故郷」世界そのものです。幼少期を過ごし成人し、やがて伴侶となる彼、彼女を親元に紹介しに帰郷した日の思い出。

そんな皆さんのが郷の自然、名物産、祭りなど紹介下さい。字数は800字前後、風景などはURL紹介だと合理的です。

《トップバッターは事務局長です》

佐賀県唐津市

富田 秀信

博多から西50キロ、昔はディーゼル機関車で1時間半、現在電化したものの、旧国鉄の単線のままで上下線待合が多く今も1時間半。この50数年間交通網に進歩がありません。

昔は漁業、炭鉱が盛んで、西唐津機関区との産業線路（引込線）、これは京都梅小路蒸気機関車館と同じで、近くに扇状格納庫があり、その煙と蒸気の音と匂いは今も忘れません。

変わらないのはやはり風景。日本三大松原の一つで5キロにわたる広大な虹の松原と玄界灘。そして正月帰郷せずとも、全国各地の唐津出身者がこの日は戻ると言う、11月初めの14基の唐津曳山が町を練り歩き様は勇壮です。今もささやかに続く漁業は、郊外の呼子（よぶこ）のイカくらい。

www/karatsu-kankou.jp

中心地に唐津城があり。その城壁の一角が出身高校です。「次郎物語」の下村胡人作詞の校歌碑があります。ところが10数年前、佐賀県出身で早稲田創設者の大隈重信云々で、120年の歴史の母校は、校舎グラウンド全て早稲田佐賀学園に譲渡というとんでもない事が起こり、母校は一面畠の中で、ありきたりの建物に移転を余儀なくさせられた。ために全国各地のかなりOBが憤慨したという事がありまし、数年後この早稲田佐賀学園が夏の甲子園出場の時も、応援はほぼ早稲田関係者だけで、地元唐津っ子は応援に行かなかつたと言うエピソードがありました。

今、上述の産業はほとんど消え、市の中心の市役所、バスターミナルは平日人影まばら、シャッターチョウ化しています。何とか持っている交通と宿泊業は、これも市郊外の玄海原発労働者のためにだけあります。



本文と写真は関係ありません